

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21330084

研究課題名（和文）「化石資源世界経済」の形成と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較史的研究

研究課題名（英文）An Investigation into the Linkages between the Emergence of a “Fossil-fuel-based World Economy” and the Trends in Deforestation and Environmental Degradation: A Comparative Historical Study

研究代表者

杉原 薫（SUGIHARA KAORU）京都大学東南アジア研究所・教授

研究者番号：60117950

研究成果の概要（和文）：

過去 2 世紀、世界経済は化石資源（石炭、石油など）に大きく依拠するようになったが、先進国で 1970 年代以降のエネルギー集約度が改善した一方で、熱帯の途上国では森林減少・環境劣化が進むなかで現在も多くの人々（世界人口の約 3 分の 1）がその生存基盤を伝統的なバイオマス・エネルギー（薪、糞など）に依存し続けている。日本、東南・南アジア、世界の環境経済史の文献の検討と実証研究から、この二重構造の形成過程を分析した。

研究成果の概要（英文）：

Over the last two centuries the world economy became heavily dependent for its energy on fossil fuels. While the energy intensity of developed countries improved after around 1970, the trend of deforestation and environmental degradation in tropical developing countries continued, and roughly a third of world population remain dependent for their livelihood on traditional biomass energy. This research attempted to trace the history of the emergence of this dual structure, through literature survey and empirical research on Japan, South and Southeast Asia and the world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
2010 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2011 年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
総計	14,700,000	4,410,000	19,110,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：経済史、化石資源、世界経済、森林伐採、エネルギー、環境負荷

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の当初の目的は、イギリス産業革命に端を発する工業化の世界的普及とともに生じた「化石資源」の利用の爆発的な拡大が世界の諸地域、とくにアジアの経済と環境に与えた影響と、その反作用や連関を比較史的に検討することであった。すなわち、19 世紀に始まる石炭の本格的な利用によって、エネルギー消費の構造は、従来の「バイオマス資源」から「化石資源」に急速に転換した。他方、第一次産品供給基地となったアジア・ア

フリカ地域の世界経済への統合は、大量のバイオマス資源、とくに森林資源の動員をもたらした。在来型の生産、交通と、家庭用エネルギーの大半はバイオマスによって担われることになり、食糧を生産する土地だけではなく、人間社会を支える環境（森林、河川、海）の「開発」が急速に進んだ。すなわち、欧米におけるエネルギー革命とアジア・アフリカにおける森林伐採・環境劣化は、「化石資源世界経済」の成立という単一の過程の「コインの表と裏」の関係にあった。

いったいこのような資源・エネルギー面での世界経済の二重構造はどのような技術的・制度的基礎の上に成立したのか。それは、20世紀後半における石炭から石油へのエネルギー転換によってどう変化したか。さらに、今世紀に入って、地球温暖化やエネルギー問題の深刻化によって「脱化石資源経済」化が試みられつつあるが、その傾向を、地域経済、世界経済の長期的な発展径路のなかでどのように展望すればよいのか。

本研究は、このような問題群に取り組むために、世界環境経済史とでも呼ぶべき分野を開拓するために構想された。

## 2. 研究の目的

具体的にはこの課題を、近年におけるグローバル・ヒストリーの方法的成果と、西洋、日本を含む東アジア、東南アジア、南アジアの実証的研究を交錯させながら進めようとした。

第一に、E. A. Wrigley や Sydney Pollard によって開拓され、杉原、斎藤が Kenneth Pomeranz や Gareth Austin らと進めてきた、ヨーロッパの主導による 世界経済の資源基盤の転換についての比較史的研究 をさらに進めようとした。杉原は石炭、石油へのエネルギー転換について、斎藤は森林史について、それぞれ経済史の国際ネットワーク(とくに 2003-2006 年に活発な活動を展開した Global Economic History Network)で成果を発表してきた。その中心的な問いは、資本、労働とともに土地を主たる生産要素と考える古典派経済学のパラダイムを、「土地の制約」とは性格の異なる、森林資源(とくに薪炭)、化石資源(とくに石炭、石油)の「制約」とどのように整合性に理解するかということであった。

第二に、戦前・戦後の日本の工業化におけるエネルギー節約型技術の発展径路の解明を進めた。谷口は森林史、小堀、島西は石炭、石油の利用の歴史において成果をあげてきたが、日本が資源・エネルギーの制約をいかに克服してきたかを世界経済史の文脈で理解する試みは多くない。本研究では、とくに両大戦間期に強く意識された「資源制約」の問題をより広い文脈で再検討することによって、日本経済史、アジア経済史研究に貢献しようとした。

第三に、東南・南アジアの経済発展におけるバイオマス資源の「開発」の地域および世界経済にとっての重要性を解明した。柳沢は南インドの土地利用史、森林史、神田は北インドの在来エネルギー史、石川は東南アジアのバイオマス社会の生態史において成果をあげてきたが、近年、熱帯の資源開発が地球環境に及ぼす影響が意識されるにしたがって、その歴史的なルーツを正確に理解する必

要が高まっている。本研究は、先進国の工業化が熱帯の森林破壊をもたらしたというような、これまでの一方向的な理解を相対化し、人間による熱帯資源の利用能力が資本主義の世界的展開に及ぼしてきた制約と、その「解放」の過程に光を当てようとした。

## 3. 研究の方法

これら3つの課題に取り組むために、メンバーが個別に日本、インド、東南アジア、イギリスで資料の収集を行い、研究会、国際シンポジウムなどで密接な相互交流・討論を行った。本研究自体も、計7回の密度の高い研究会を開催した。また、本研究と並行して行われた京都大学グローバルCOE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」が主催する多くの研究会や国際シンポジウムでも、本研究の構想が議論された。以下に記す成果はそのごく一部にすぎない。

## 4. 研究成果

### (1) 「化石資源世界経済」の興隆とバイオマス社会の再編に関する全体的理解

杉原は、産業革命以降の化石燃料(とくに石炭と石油)の大量の使用が地球環境と人間社会の関係を根本的に変えてしまったとし、動力機械の使用によって人間による自然の改変力が一挙に強まるとともに、交通革命によって化石燃料を世界各地に運ぶことができるようになった結果、従来前提されていたローカル、リージョナルな生産にとっての資源・エネルギー面の制約が打破された一方で、地域を単位として長い間培われてきた人間と自然の相互作用系の「統治権」が失われ、グローバルな市場メカニズムが、環境の持続性についての適切なモニタリング機能を内蔵しないまま、それに取って代わったとした(論文①②; 図書⑥)。

「化石資源世界経済」興隆史では、世界エネルギー消費の趨勢を検討し、1970年以降のエネルギー効率の上昇が世界化石資源消費の約三分の一を節約したことは世界経済の発展径路から見ればエネルギー集約型から節約型への転換であったが、その果実は不均等に分配されているだけでなく、「化石資源世界経済」の維持は中東地域の軍事紛争や発展途上国の軍事化とも深く関連していることを明らかにした(論文⑤; 図書③、および研究会報告「インド軍事化の長期趨勢-SIPRI, ACDA, IISS のデータによる国際比較」)。

他方、いわばその裏側の過程として、熱帯アジア・アフリカにおける森林減少・環境劣化が進行したことも重要である。そこで、この地域における1950年代以降のバイオマス・エネルギーの消費について検討し、とくに化石エネルギーの消費と伝統的なバイオ

マス・エネルギーの消費がともに増加するという「二重構造」が広汎に持続しており、バイオマス・エネルギーに依存する人口は現在も増え続けていることを示した（杉原「『化石資源世界経済』の興隆とバイオマス社会の再編」杉原薫・脇村孝平・藤田幸一・田辺明生編『講座 生存基盤論 第1巻 歴史のなかの熱帯生存圏—温帯パラダイムを超えて—』、京都大学学術出版会、2012年5月）。

斎藤修は、歴史人口学とグローバル・ヒストリーを交差させた地平から多くの研究を発表したが、本研究と直接かかわるのは、長期の森林史におけるアジアとヨーロッパの比較である（論文⑧）。森林の減少と回復の趨勢の研究は、さらに上記の杉原による最近半世紀ほどの趨勢の特定ともあわせて、世界環境経済史の一つの流れを形成するものである。

### (2)日本の環境・エネルギー経済史研究

このテーマでは、研究分担者2名が目を見張る業績を刊行した。小堀『日本のエネルギー革命—資源小国の近現代—』（図書⑳）；論文⑩⑪も参照）は、1920年代以降のエネルギー節約型技術の発展を、1950年代を軸に、長期的な経路として鳥瞰した著作として、日経図書文化賞を受賞するなど、注目された。本研究会においても、橋川武郎氏、籠谷直人氏を招いて書評会を開催した。その後も、「臨海工業地帯の誕生 1920-1960—鈴木雅次に着目して」を研究会で報告するなど、この分野を開拓しつつある。

島西『日本石炭産業の戦後史—市場構造変化と企業行動』（図書㉑；論文⑬⑭⑮も参照）は、衰退産業としての石炭産業の歴史を戦後日本の高度成長のマクロ的要因や市場構造などの背景のなかに位置づけ、経営と労働の行動をバランス良く説明した。本研究会でも、澤井実氏、籠谷直人氏を招いて書評会を開催した。島西氏はこのほかにも砂利をめぐる環境史や「家庭用燃料における化石資源化の過程」について刺激的な報告を行った。

谷口は研究会で学会発表⑩⑪のほか、「昭和初めの木炭生産・資源の地域性—GISの活用に向けて」など、日本の森林史に関する実証的研究の進展を報告した。

### (3)東南・南アジアのバイオマス社会研究

サラワクをフィールドとする石川は、みずからの実証研究にもとづいた「熱帯バイオマス社会」論を展開し、人間によって耕作された「土地」というよりは、周辺の森林などに大量に蓄積されたバイオマス資源に依存する社会の特徴と重要性を論じた（図書⑮⑯）。研究会でも、「森と Commodity Web—熱帯バイオマス社会の空間的理解にむけて」など、刺激的な報告を行った。

植民地期南インドの経済史に多くの業績のある柳澤は、農業史、消費構造の歴史などの分野で業績を出したが、本研究との関連では村落にバイオマスを供給する共有地の長期的動向に関する研究が注目される（論文⑥；図書⑩）。研究会でも「タミルナード農業の一世紀—農地、灌漑、生産量」など、農業との関連で環境経済史を論じた。

神田は、19世紀前半のベンガルにおける塩生産を素材に、伝統的なバイオマス・エネルギーの確保が在来産業に与えた影響を論じた（論文⑩）。研究会ではそれを一般化した報告（「燃料利用とインドの長期的経済発展」）で試論を展開した。

杉原は、第一次大戦までの英領インドにおける木材取引を検討し、第一次産品輸出経済の進展がインドの森林伐採を促した過程を検討した（学会発表⑤）。

全体として、工業化と地球環境の持続性をめぐる新分野のイメージが、アジアの諸地域を視野に入れながら多面的に共有できたこと、戦後日本のエネルギー経済史についての若手研究者による実証研究を誘発できたことが収穫であった。

### (4)国内外へのインパクトと今後の展望

杉原は、全体構想及びその一部を、論文や学会・研究会での頻繁な報告をつうじて、日本語、英語で発信を試みた（学会発表④⑥やイギリス、イタリアでの招待講演など）。他のメンバーも、国の内外でみずからの研究を発表する多くの機会を作った。例えば、2009年8月の世界経済史会議（ユトレヒト）では柳澤、斎藤、杉原、神田が関連する報告を行った（杉原、神田はパネルを組織）。また、杉原、神田は、2011年4月の第2回ヨーロッパ世界史会議（ロンドン）で成果を報告した。神田は同年9月の社会経済史学会全国大会（東洋大学）においてパネルを組織し、問題提起を行うとともに、小堀、島西が報告した。さらに、杉原は、2012年1月のアメリカ歴史学会（シカゴ）での招待講演で、本研究の成果にもとづき、工業化と地球環境の持続性の関係を論じた。

斎藤、柳澤、神田が英語の査読付き有力雑誌に、本研究に直接関係する成果を公表したことも特記に値する。今後の成果の刊行によって、議論がさらに展開していくことが期待される。

なお、本研究の戦後アジアの部分拡大・深化させるため、新しい科研「戦後アジアの経済発展の環境史的研究—資源・エネルギー貿易の構造分析を中心に—」が今年度から発足した。杉原〔研究代表者〕、小堀、石川〔研究分担者〕、神田〔研究協力者〕はここでも

本研究をさらに発展させる予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

1. 谷口忠義、中村一幸、「山の回顧録～炭焼きから薪売り、そして材木屋として」、新潟青陵大学短期大学部研究報告、査読有、42号、2012、56-67。
2. Satoru Kobori, "Development of the Japanese Energy Saving Technology during 1920-1960 : The Iron and Steel Industry", *Economic Research Center Discussion Paper*, 査読無、E12-1, 2012, 1-32.
3. Kaoru Sugihara, "The Humanosphere-sustainable Path of Development in Global History", *Proceedings of the Final International Conference on Kyoto University Global COE Program 'In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa'*, 査読無, 2011, 165-186.
4. 杉原薫、「『化石資源世界経済』の形成と構造－エネルギー効率の改善と環境破壊の200年－」、国際高等研究所報告書、査読無、1,011巻、2011、91-101。
5. 杉原薫、「グローバル・ヒストリーとアジアの経済発展径路」、『現代中国研究』、査読有、28号、2011、13-20。
6. 杉原薫、「南アジア型経済発展径路の特質」、『南アジア研究』(特別企画「20周年記念連続シンポジウム」)、査読有、22号、2011、170-184。
7. Haruka Yanagisawa, "Village Common Land, Manure, Fodder and Intensive Agricultural Practices in Tamil Nadu from the Mid-Nineteenth Century", *Review of Agrarian Studies*, 査読有、Vol.1 No.1, 2011, [http://ras.org.in/index.php?Abstract=village\\_common\\_land\\_manure\\_fodder\\_and\\_intensive\\_agricultural\\_practices\\_in\\_tamil\\_nadu\\_from\\_the\\_mid\\_nineteenth\\_century](http://ras.org.in/index.php?Abstract=village_common_land_manure_fodder_and_intensive_agricultural_practices_in_tamil_nadu_from_the_mid_nineteenth_century).
8. Haruka Yanagisawa, "Two Types of Economic Growth in Asia: Chinese Development along the East Asian Path and Indian Development with a Stratified Social Structure", 千葉大学『経済研究』、査読無、第25巻第4号、2011、1-25。
9. 島西智輝、「高度成長期日本における中小炭鉱合理化対策－中小炭鉱合理化指導の分析－」、『三田商学研究』、査読無、第54巻第2号、2011、91-110。
10. Sayako Kanda, "Environmental Changes, the Emergence of a Fuel Market, and the Working Conditions of Salt Makers in Bengal, c.1780-1845", *International Review of Social*

*History*, 査読有, 55, 2010, 123-151.

11. 島西智輝、「戦後日本の石炭市場における需要開拓と取引制度の再編」、『立教経済学研究』、査読有、第64巻第2号、2010、109-130。
12. Kaoru Sugihara, "The East Asia—Middle East—US/Europe Oil Triangle: Seeing Patterns of Trade and the Growth of the World Economy", *Middle East Institute Viewpoints: The 1979 Oil Shock: Lessons, Linkages, and Lasting Reverberations*, 査読有, August 2009, 2009, 60-63.
13. Osamu Saito, "Forest History and the Great Divergence: China, Japan and the West Compared", *Journal of Global History*, 査読有, Vol.4, no.3, 2009, 379-404.
14. Noboru Ishikawa, "Centering Peripheries: Flows and Interfaces in Southeast Asia", *Kyoto Working Papers on Area Studies No.10*, 査読無, Global COE Sub-Series No.8, 2009, 1-13.
15. Sayako Kanda, "Forged Salt Bills and Calcutta's Financial Crisis in the Late 1820s", *Keio/Kyoto Global COE Discussion Paper Series*, 査読無, DP2009-010, 2009, 1-17.
16. Tomoki Shimanishi, "'The Energy Revolution' and Environmental Problems: Changes in the Domestic Coal Market in Post-war Japan", *Keio/Kyoto Global COE Discussion Paper Series*, 査読無, DP2009-015, 2009, 1-24.
17. 小堀聡、「火力発電のエネルギー革命－日本における『油主炭従』化の展開と電力業・電力政策」、『電気学会研究会資料HEE』、査読無、09・9～14、2009、5-10。

[学会発表] (計 23 件)

1. Kaoru Sugihara, "Industrialization and Environmental Sustainability: An Agenda for Global History", American Historical Association Annual Meeting (招待講演), 6th January 2012, Chicago Marriott Downtown, Chicago (U. S. A.).
2. Noboru Ishikawa, "Plantation and Tropical Forests: Transformation of a Biomass Society in East Malaysia", International Conference on Plural Coexistence: East Asian Experiences in Comparative and Interdisciplinary Perspectives, 17th December 2011, Kyoto University.
3. 柳澤悠、「農村社会の変容と経済発展－サービス部門の拡大を中心に－」、『現代インド地域研究』国内全体集会：「インドにおける経済発展－都市・農村の変動－」、2011年11月27日、広島大学。
4. Kaoru Sugihara, "The Humanosphere Index: Understanding the Sustainability of

- Geosphere, Biosphere and Human Society”, IEHA Executive Committee Meeting Workshop (招待講演), 12th November 2011, Bocconi University, Milan (Italy).
5. 小堀聡、「臨海工業地帯整備の戦前・戦時・戦後－鈴木雅次とその時代」、経営史学会関西西部会サマーシンポジウム、2011年8月1日、大阪市立大学。
  6. Sayako Kanda, "Labour, Resources and Industrial Decline in Bengal during the First Half of the Nineteenth Century", Third European Congress on World and Global History, Panel on "Labour Intensification in Eurasia: Comparative and Long-term Perspectives", 16<sup>th</sup> April 2011, The London School of Economics and Political Science (U.K.).
  7. 谷口忠義、「薪炭業と生物多様性～巨樹・巨木の環境経済史～」、京都大学グローバルCOEと本科研との合同研究会、2011年3月7日、京都大学。
  8. Kaoru Sugihara, "The South Asian Path of Economic Development: A Note on Diversities and Integration", INDAS Second International Conference, 29th January 2011, Kyoto International Community House.
  9. 杉原薫、「グローバルな資源制約と東アジアの台頭－持続型の長期発展径路を求めて－」、財務省財務総合政策研究所「経済社会の基調的な変化」ワークショップ、2010年3月3日、財務省財務総合政策研究所。
  10. Haruka Yanagisawa, "South Indian Village Common Lands in Transition: The Decline of the Elite-dominant Managing System and Changes in the Role of Common Lands in Local Agricultural Production and in the Village Economy", INDAS First International Conference, 13th December 2009, Kyoto University.
  11. Noboru Ishikawa, "Equatorial Blessings or Woes? The Regime Shift of a Biomass Society in Southeast Asia A Presidential Session", The American Anthropological Association, 2nd Dec 2009, Philadelphia Marriott Downtown, Philadelphia (USA).
  12. 杉原薫、「(西村雄志と共同報告) 世界経済へのインドの統合と森林の商業化、1890－1913年」、慶應義塾大学グローバルCOEと本科研との合同ワークショップ、2009年11月7日、慶應義塾大学。
  13. 谷口忠義、「森林史からみた戦前日本の薪炭商の役割－試論的考察－」、慶應義塾大学グローバルCOEと本科研との合同研究会、2009年11月7日、慶應義塾大学。
  14. 杉原薫、「20世紀世界経済とエネルギー節約型発展径路」、東京大学大学院経済学研究所経済史研究会、2009年10月26日、東京大学。
  15. 柳澤悠、「ティルチラーパッリ県水田地帯農村の社会経済変動と消費の変化」、南アジア学会セッション「消費パターンの長期変動と社会構造・社会意識」、2009年10月4日、北九州市立大学。
  16. 神田さやこ、「問題提起：エネルギー資源制約と日本の経済成長(1920-1970年代)」、社会経済史学会第78回全国大会、2009年9月27日、東洋大学。
  17. 17 島西智輝、「1960～70年代における石炭資源開発と石炭利用－電力用一般炭を中心に－」、社会経済史学会第78回全国大会パネルディスカッション、2009年9月27日、東洋大学。
  18. Haruka Yanagisawa, "Village Common Land, Manure, Fodder and the Intensification of Agricultural Practices: South Indian Agriculture since the Middle of the Nineteenth Century", 'Indo-Japanese Workshop on South Asian Economy and Environment', 5th September 2009, Nehru Memorial Museum and Library (hosted by Jawaharlal Nehru University), New Delhi (India).
  19. Kaoru Sugihara, "Multiple Paths of Economic Development in Global History", 15th World Economic History Congress, 7th August 2009, Utrecht University, Utrecht (The Netherlands).
  20. Sayako Kanda, "Fuel Crisis and Conditions of Salt Workers in Early Nineteenth Century Bengal", the 15th World Economic History Congress, 6th August 2009, Utrecht (The Netherlands).
  21. 神田さやこ、「19世紀前半期カルカッタにおける燃料市場の形成と石炭取引」、経営史学会関東部会大会、2009年7月18日、慶應義塾大学。
  22. Kaoru Sugihara, "The European Miracle in Modern Global History: A View from East Asia", Conference on 'Writing the History of the Global', 22nd May 2009, British Academy, London (U.K.).
  23. Noboru Ishikawa, "The Social Resiliency of High Biomass Society: An Historical Analysis", Institute of East Asian Studies, 19th May 2009, Universiti Malaysia Sarawak, Kuching, Sarawak (Malaysia).
- [図書] (計21件)
1. 佐藤孝宏・和田泰三・杉原薫・峯陽一編、京都大学学術出版会、『講座 生存基盤論 第5巻 生存基盤指数－人間開発指数を超えて－』2012、291。
  2. 石川登、祖田亮次、鮫島光弘、京都大学学

- 術出版会、「熱帯バイオマス社会の複雑系: 自然の時間、人の時間」、柳澤雅之・河野泰之・神崎護・甲山治編『地球圏・生命圏の潜在力: 熱帯地域の生存基盤』、2012、336。
3. 杉原薫、岩波書店、「世界大恐慌と通貨・経済の構造変動」和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代史 第5巻 新秩序の模索 1930年代』、2011、391。
  4. 柳澤悠、明石書店、「インドの共同利用地の歴史的変容と森林」井上貴子編『森林破壊の歴史』、2011、220。
  5. 斎藤修、岩波書店、「アジア人口史」、和田春樹ほか編『東アジア近現代通史 別巻 アジア研究の来歴と展望』、2011、352。
  6. Noboru Ishikawa ed., Kyoto University Press, *Flows and Movements in Southeast Asia: New Approaches to Transnationalism* (New Edition), 2011, 310.
  7. 島西智輝、慶應義塾大学出版会、『日本石炭産業の戦後史－市場構造変化と企業行動』、2011、374。
  8. 杉原薫、ミネルヴァ書房、「中東軍事紛争の世界経済史的文脈－石油・兵器・資金の循環とその帰結－」長崎暢子・清水耕介編『アフラシア叢書1 紛争解決 暴力と非暴力』2010、402。
  9. 杉原薫、東京大学出版会、「比較史のなかの日本の工業化」石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史6 日本経済史研究入門』、2010、366。
  10. Kaoru Sugihara, Ashgate, Farnham, "Formation of an Industrialization-Oriented Monetary Order in East Asia", in Shigeru Akita and Nicholas J. White eds, *The International Order of Asia in the 1930s and 1950s*, 2010, 308.
  11. 杉原薫、川井秀一、河野泰之、田辺明生編、京都大学学術出版会、『地球圏・生命圏・人間圏－持続的な生存基盤を求めて－』、2010、427。
  12. Douglas E. Haynes, Abigail McGowan, Tirthankar Roy and Haruka Yanagisawa eds, Oxford University Press, New Delhi, *Towards a History of Consumption in South India*, 2010, 299.
  13. 柳澤悠編『消費パターンの長期変動と社会構造・社会意識－南インドの事例を中心に－』、千葉大学、2010、114。
  14. Wil de Jong, Denyse Snelder, and Noboru Ishikawa, eds, Earthscan, London, *Trans-border Governance of Forests*, 2010, 217.
  15. Noboru Ishikawa, NIAS Press, Copenhagen, *Between Frontiers: Nation and Identity in a Southeast Asian Borderland*, 2010, 268.
  16. 石川登、京都大学学術出版会、「歴史のなかのバイオマス社会」杉原薫、川井秀一、河野泰之、田辺明生編『地球圏・生命圏・人間圏－人類にとって生存基盤とは何か－』、2010、427。
  17. 小堀聡、名古屋大学出版会、『日本のエネルギー革命－資源小国の近現代』、2010、432。
  18. 杉原薫、世界思想社、「19世紀前半のアジア交易圏－統計的考察－」脇村孝平・籠谷直人編『帝国とアジア・ネットワーク－長期の19世紀－』、2009、352。
  19. Giorgio Riello and Tirthankar Roy eds, with collaboration of Om Prakash and Kaoru Sugihara, Brill, Leiden, *How India Clothed the World: The World of South Asian Textiles, 1500-1850*, 2009, 139-69, 489.
  20. Kaoru Sugihara, Ashgate, Farnham, "The European Miracle and the East Asian Miracle: Towards a New Global Economic History", in Kenneth Pomeranz ed., *The Pacific in the Age of Early Industrialization*, 2009, 379.
  21. 杉原薫、勁草書房、「戦後世界システムの変容と東アジア－歴史的展望－」、浦田秀次郎・財務省財務総合政策研究所編『グローバル化と日本経済』、2009、95-114。
6. 研究組織
- (1)研究代表者  
杉原 薫 (SUGIHARA KAORU)  
京都大学・東南アジア研究所・教授  
研究者番号: 60117950
  - (2)研究分担者  
柳澤 悠 (YANAGISAWA HARUKA)  
東京大学・東洋文化研究所・名誉教授  
研究者番号: 20046121  
斎藤 修 (SAITO OSAMU)  
一橋大学・経済学研究所・客員教授  
研究者番号: 40051867  
石川 登 (ISHIKAWA NOBORU)  
京都大学・東南アジア研究所・准教授  
研究者番号: 50273503  
谷口 忠義 (TANIGUCHI TADAYOSHI)  
新潟青陵大学短期大学部・准教授  
研究者番号: 40293162  
神田 さやこ (KANDA SAYAKO)  
慶應義塾大学・経済学部・准教授  
研究者番号: 00296732  
島西 智輝 (SHIMANISHI TOMOKI)  
香川大学・経済学部・准教授  
研究者番号: 70434206  
小堀 聡 (KOBORI SATORU)  
名古屋大学・大学院経済学研究科・准教授  
研究者番号: 90456583